

**宮城県美田園高等学校**  
**令和6年度 第1回学校評議員会 記録**

**1 日時**

令和6年6月23日（月）午後3時～午後4時20分

**2 会場**

宮城県美田園高等学校 会議室

**3 情報交換**

**(1) 令和6年度重点目標について**

**(2) 令和6年度前期教育活動についての質疑**

**【A評議員】**

公立の通信制高校としての役割を果たすためには、やはりちゃんと国のガイドラインまでの人員、つまり生徒40名に教員1名は確保すべきである。

**【校長】**

本校の定員が500人であることも含めて、教育委員会と話し合いをしていきたい。また、先生方の現状についても伝えていきたい。

**【B評議員】**

通信制高校になぜこれだけの人が集まってきているのかという、もっと大きい話がある。生徒の特徴によっては普通高校で受け入れてくれるところがないということがあるのではないか。

文部科学省あたりでそういう視点で物事を見ているかどうか、現状を把握しているかどうか気がかりである。

**【校長】**

全国通信制の協議会や地区通信制の協議会などでもこのことは話題に上がる。特に広域の私立通信制が増えてきている。公立は全国的に見るとやや増えている状況である。

本校は県内唯一の公立通信制学校であるので、それも含めて県の方でもしっかり考えてもらえるように 伝えたいと思う。

**(3) 令和6年度学校運営改善の取組についての質疑**

**【A評議員】**

文部科学省の研究開発学校制度について、前身の仙台一高通信制は平成16年度から18年度の3年間、文科省の研究開発学校としてアクセス科目をスタートした。このアクセス科目では初級国語や初級数学などの科目が対象で、20名の生徒が選抜され、週4日登校して学習を行った。この取組は、小中学校時代の学び直しや自学自習のスキルを身につけ、高校の学習に2年目から入るといったコンセプトで行われた。

しかし、現在のアクセス科目を受講している層については、当初選抜された層と比較してどうなのか、アクセス科目からの学習が本当に有効なのか、といった疑問がある。また、学習支援室の活用など、学校側の努力によって繋がっている部分もあるが、それでもなお、定通チャレンジの人員配置が縮小していることが課題となっている。

さらに、アイデアルスクールとして3年後に開校する高校についての議論もある。現在の昼間定

時制や通信制のコンセプトを見ると、学習支援の役割を引き継いでいるように思える。こうした状況で、人員不足をはっきりと伝え、特別支援教育支援員の配置や通級指導などを要求することが重要だと考える。

宮城県は被災3県の中でも特別支援教育支援員の配置が少ない一方、岩手県や福島県、山形県では多くの特別支援教育支援員が配置されている。こうした現状を踏まえ、特別支援教育支援員の配置を増やすことで、学習支援室や通級指導を充実させる必要があると思う。

かつての高校教育課長も言及していたが、現場の声をしっかりと伝えることが重要である。特別支援教育支援員の配置や学習支援室の充実について、積極的に要望を出していくべきだと考える。

美田園高校にもっと配置されるよう求めることは、アイデアルスクールの成功に向けての重要な一歩であると考えます。

#### 【C評議員】

美田園高校の存在、地域に根差す高校という位置付けから見た場合に、何かもう少し情報発信をしてはどうか。毎年行われる公民館祭りに美田園高校のブースを作り、そこに活動の写真や生徒の制作物を地域の方に見てもらおうなどを考えてみてはどうか。

次に、防災関係だが、有事の際にはこの施設が名取市の一次避難所になっている。その時に、地域の方がどのようにして入っていくのかを意外と知らない人が多い。ある程度名取市からの指示に基づいて住民の方は避難するのだろうが、もう少しオープン情報開示のような部分が必要であると感じる。

#### 【校長】

防災の方では、まなウェル全体の防災組織がある。ただ、今回の評議委員会でこのような意見が出たということは伝えたい。確かに、一度も来たことない人は戸惑うと思う。

地域への発信については、本校の学校通信をそのまま提供できればよいのか、もしくは何か他の形のものの方がよいのか、美田園高校を知ってもらうために考えたいと思う。

#### 【B評議員】

不登校の生徒たちが立ち直る過程について、同じ年代の子供たちと同じ目標を持つことで、周りからの影響を受け、学校に通う意欲が高まったことがあった。また、専門学校のオープンスクール等に参加したことで、学校に戻る決断をしたこともあった。

学習サポーターの予算削減について、義務教育の不登校対策に予算を割くことはやむを得ないのかもしれない。ただし、予算の配分については慎重に検討すべきであり、本末転倒にならないように注意が必要だ。県の部門でしっかりと議論し、立ち直った経験を活かすための適切な予算配分を行っていただければと思う。

#### 【A評議員】

不登校対策において、定通高校が重要な役割を果たしている。不登校の生徒たちにとって、定通高校は見通しが立ち、明るい未来を示してくれるようである。

具体的な事例として、中学校で1日も学校に行かなかった生徒が美田園高校に入学し、単位を取得して正社員として就職したケースがある。また、公共交通機関が利用できない場合でも、自家用車通学を目指すことで、不登校の生徒たちが立ち直っているケースもある。

不登校特例校や夜間中学校など、さらなる受け皿を提供することで、不登校対策を広げていくことが重要である。これからも、不登校の子供たちに希望とサポートを提供するために、適切な教育環境を整えていくことが求められている。

#### 【校長】

生徒一人ひとりに目を配ってサポートすることで、立ち直り、学校に通えるようになった例は多

くある。小さなコミュニティが形成され、そこで生き生きと学習している様子を見聞きすることで、定通高校で立ち直る生徒たちが多いことを感じている。

#### 4 各評議員からの助言

##### 【B評議員】

生活体験発表や卒業式などで、生徒が壇上に立って話す姿を見て、その胸の内を文章にまとめて発表することは素晴らしいことであると感じた。しかし、保護者の方々もストレスを抱えていることがあると思う。保護者の心の中を書き出すことも必要なのかもしれない。教育振興会の役員会では保護者の話を聞く機会があるが、総会では難しい。保護者のストレスを解消するために、解決策を探る必要があると感じている。

物事が順調な時こそ、ちょっとした問題に気づくことが大切である。小さな問題を早めに解決することで、信頼を損なわないようにしたい。教育振興会の役員会で会則の整理を進めていることも重要である。問題解決には全員の知恵を出し合うことが大切で、多数決だけでなく根拠を明確にすることも必要である。

##### 【A評議員】

美田園高校や他の定時制高校は、社会的孤立を防ぐためのセーフティーネットとして考えられている。在籍生のケアや精神的サポートが重要であり、登録生だけでなく在籍生の状態に目を向けることが大切である。

通信制においてサテライト校の話題が出てきている。他県の事例を参考に、サポート校としての役割を考えることがよいかもかもしれない。特別支援教育の実践や成功事例を広く知らせることも重要である。

高校生の公共交通機関が不便になっている現状に対して、通学支援や通学費の補助などの施策が必要である。通信制の予算を柔軟に活かして、解決策を模索することが望ましい。

##### 【C評議員】

学校として、生徒は財産である。一人一人の学習態度を見て、良かったことを直接褒めてほしい。それが次の学習行動の弾みとなると思う。自学自習についても感銘を受けた。現代の生徒たちは無限のアイデアを持っている。我々が考えるようなアイデアではない。先生方には、その時に気づいたら、生徒を褒めて伸ばしてほしい。